

# 私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会(事務局:全国私立学校教職員組合連合)  
No.13 2023年10月4日(水)

東京・大東学園高校の「23区プロジェクト」が大きく報道されています。8月の教育のつどいの開会全体集会のリレートークでの生徒の話を聞いた記者が、9月の行動を現場取材して記事にしました。「(無償化に後ろ向きな)国会議員の認識を変えていきたい」という姿勢に、行動を通じた確かな成長がうかがえます。

# 高校生「私学も無償に」

## 東京・大東学園高の生徒ら23区プロジェクト



練馬駅前で行った署名活動。1時間で35人から署名が集まりました(写真は11月5日)

公立高校と比べ私立高校の学費は高く、子どもや親の大きな負担となっています。私学助成の拡充を求める署名運動が全国で行われています。東京都世田谷区の大東学園高校では生徒の声から、都内全23区内の駅を回って署名を集める「23区プロジェクト」を進めています。(柴矢ゆう子)

「私立学校の学費軽減のための署名活動を行っています」  
9月2日、午前中にもかかわらず、気温は既に34度を超える猛暑でした。生徒会長の大黒くるみさん(高3)が地下鉄の後楽園駅(文京区)前で元気づく声をかけます。「暑い中がんばっています」

## 私たちの力で都・国を変えたい



署名を呼びかける大黒さん(東京都練馬区)の練馬駅前

「娘が私学に通っているから」「自分も私学に通っていたから」など、1時間で14人分集まりました。午後には地下鉄の練馬駅(練馬区)へ。「夫が単身赴任で二重生活でお金がかかると、ギリギリ補助が出ない。所得制限をなくしてほしい」「学生時代の奨学金を返している。将来の子育てが心配」といった声とともに35人分の署名が。大黒さんら大東学園高校の生徒、保護者、教職員の三者がつくる署名推進



後楽園駅前での署名活動。生徒と保護者、教員が参加しました  
▼署名を呼びかける川島さん(東京都練馬区)の練馬駅前

進協議会が「署名を東京中に広げて都の姿勢を変えたい」と23区プロジェクトを始めたのは、昨年からです。今年の署名目標は2万人です。取材したこの日には2チームに分かれて、4区4カ所の駅前で各1時間署名活動を行いました。



### バイトで補う

署名をしてくれた人に大黒さんは「アルバイトをして学費にあてています」と話します。署名した女性は「私が高校生のときは、親の負担について考えたこともなかった。保護者の時給が上がる中、高校生がアルバイトで補っている大変だと思った。大黒さんも生徒会活動

# 若者BOX

ワカモノボックス  
ワイド

## 「軍事費2倍化やめればできる」

「署名を届けに国会に行ったとき、『みなさんの努力次第で変わる(公立に行ける)んじゃないか』という議員や『教育費にお金を回すのは難しい』と話す議員もいました。私立高生が都内で6割を占める現実を理解していないし、軍事費2倍

化をやめれば私立高校の無償化はできる。国会にも自分たちの思いを伝える機会をつくらせて、教育費にお金をかけるよう声を届けていきたい」

の傍ら通りくは、午前7時から2〜4時間程度アルバイトをしています。「周りも7割くらいバイトをしています。高校は私学に行ったら大学の学費は自分で払って、と言われていた同級生もいます。署名を集めて保護者の負担を減らしたい」

同校では、校則や施設について生徒、保護者、教職員の三者協議会で話し、合意して運営しています。「先生と対等に話ができるのがすごい」と志望した大黒さん。「深く関わりたい」と生徒会長を務めます。社会に訴えて多くの署名を集めることも、国会議員の認識を変えていきたいと話します。

「署名を届けに国会に行ったとき、『みなさんの努力次第で変わる(公立に行ける)んじゃないか』という議員や『教育費にお金を回すのは難しい』と話す議員もいました。私立高生が都内で6割を占める現実を理解していないし、軍事費2倍

### 署名を力に助成拡充を

大東学園高校の署名推進協議会を含む、ゆきとどいた教育をすすめる都民の会は、国と東京都あての署名を進めています。

署名運動が力になり、2020年度から国は年収590万円まで、都は年収910万円までの世帯の私立高校の授業料を無償にしました。返金は12月です。

しかし、授業料以外にも施設設備費などで初年度全国平均約36万円、2、3年目に約20万円以上の負担があります。

今年の国あての署名では▽教育予算増額▽私学の経常費助成補助の増額▽年収910万円未満まで私立高校授業料を無償に一を求めています。

### 無償化は世界への約束

日本政府は2012年に、国際人権規約の中等・高等教育無償化条項の留保を撤回しました。私学も含めた高校無償化は世界への約束です。授業料助成だけでなく、私学への経常費助成も不十分で、非正規教職員比率が4割以上に、教員不足や少人数学級の現状が進まない原因になっています。

### 家族の助けに

1年生の川島美羽さんは、署名活動に参加するのは2回目です。4月から飲食店とコンビニのアルバイトをかねもちし、少しでも助けになりたい。自分たちの行動で国を変えたい」

### 2年生の男子生徒は2回目の参加です

「中学校の同級生は、お金がなくて私立高校には行けないため、絶対に受かる都立高校しか受験できなかった。生活が苦しくて、東京の私立高校は入学金などで初年度に約46万円かかる。困っている一人ひとりの状況に寄り添う制度にしたい」

参加した別の2年生の男子生徒には、高校受験する妹と小学生の弟がいます。「これまでの署名活動がなかったら、学費はもっと高かったと聞きました。妹と弟が私立に行きたいとなったとき、少しでも助けになりたい。自分たちの行動で国を変えたい」

「私も私学だと母親を苦勞させちゃうんじゃないかな、とバイト代を渡しています。死に物狂いで働く母親に迷惑をかけるのはつらい。署名活動をする中で、私と同じ思いをする子を減らしたい」

2年生の男子生徒は2回目の参加です。「中学校の同級生は、お金がなくて私立高校には行けな